

総動員伝道

総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

血によるあかし

総動員伝道 代表 姫井雅夫

新しい年、2005年を迎えました。昨年は予想もしないほど、多くの災害があり、人命が失われました。自然は破壊され、人心も荒んでいきました。今年は主の恵みに与かる年であってほしいです。

イラクで多くの人の血が流されました。日本でも交通事故で、また殺人事件で多くの人の血が流されました。血はいのちの象徴です。

「やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ1度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです」(ヘブル九・12)。イエス・キリストはすべての人類の贖いのためにご自分の血を流してくださいました。ここに神の愛を見るのです。



昨年、11月に天草へ出かけました。右下の写真は本渡市にある祇園橋です。天草四郎の乱の時、多くのクリスチャンがこの橋の下で殺されました。

た。下の川が殉教者たちの流した血によって真っ赤に染まっていたと言われています。彼らは神への信仰のゆえに血を流すことを



恐れなかったのでしょうか。彼らの神への愛の表れです。

「キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするのでしょうか」(ヘブル九・14)。キリストの血のゆえに、信仰者たちも神に仕えるものとしての血を流したのでしょうか。

左下の写真は、本渡市からさらに西にある荅北で撮ったものです。島原と天草で約1万人が殉教の死を遂げたと言われています。荅北には千人塚があり、3千人以上の殺された人々の首が埋葬されています。

人々の首が切り取られた場所が左の写真です。案内くださった南牧師とともに、この場所で祈りをささげました。涙が止まりませんでした。殉教者の血が流された地ですから、なんとしてもこの地域の人々に福音を正しく理解してもらいたいと思います。しかし地元の人々はクリスチャンになるとこのように首を切られ、血を流すことになると、今でもキリスト教への偏見を持っているのです。誤解を解き、キリストの血によるいのちに与ってほしいと思います。

日本にもキリストに対する愛と信仰のゆえに潔く血を流した人々の歴史があります。今の私たちはそれほどの忠誠心をもって主にお仕えしているだろうかと思わされます。「神のみことばをあなた方に話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末を見て、その信仰にならなさい」(ヘブル十三・7)。

2005年も私たちの生き様を通して神の愛と恵みをあかしして行きたいと願います。普段のごくありきたりの生活でも、そこに神の愛に生きるクリスチャンの姿があれば幸いです。





主と共に歩む一年

羽鳥 明

2005年の新年、おめでとうございませう。今年もどうぞよろしくお願ひします。

元旦には、私達日本人は、新年の誓ひ、新年の抱負、新年の夢とか抱きます。それは大変良いことです。

しかし、多くの人は、今日のような泥沼の世界、一挙に平和に、明るくなる希望が持てず、今年も同じような年だろうと、あきらめています。

一寸先は闇、明日何が起こるか分からない現実の前に、災害や戦争や犯罪一杯の世の中にあつて、いつ世界の終わりが来るかと恐れています。

こんな新年に、私に与えられた聖言は、「あなたがたは、このように主イエス・キリストを受け入れたのですから、彼にあつて歩みなさい」(コロサイ二・6)でした。

主イエス・キリスト、ゆく先全てを知っておられる全知全能の主、永遠の愛をもつて愛して、誠実をつくして下さる力の神を、私たちは受け入れました。ほんとうの神、救い主が私たちの内におられる。この方と共に歩めば、一歩一歩、光の中です。そして遂には平和と喜びと栄光の国に導いて下さる。信じましょう。この御方と一緒に歩ませて頂く恵みを



天よりの秘密を

有賀喜一

「天に秘密をあらわすひとり神がおられ、この方が終わりの日に起こることを……示されたのです。1つの石が人手によらずに切り出され……打ち砕きました。そして石は大きな山となつて全土に満ちました」

(ダニエル二・28、34、35)

2005年は、天よりの秘密があらわされる年となりますように祈ります。神の国は必ず建て上げられるという計画は確定しています。その神の国は人手によらない超自然性を発揮します。そして神の国は全土に満ちる拡大が約束されています。終わりの日をさらに迎えて、かつてネブカデネザル王に「示された夢が正夢として、日本のために実現されますよう待望、切望します。

年頭にあたり、日本、アジア、そして世界の総伝の祈りの友と共に前進を誓います。



教会の成長を願いつつ

小助川次雄

年頭の祝福をお祈りいたします。今年は、日本の各個教会のさらなる成長のために祈りつつお伝えさせていただきます。願っています。

教会形成とか、教会成長とか言いますと、今さら何をいつているのかと言われるかも知れません。時代遅れと思われるかも知れませんが。

しかし、ほんとうにそのように言つて済むことなのでしょう。聖書の中には、働き人や信者の成長とし教会の前進について書いているところが少なくありません。「成長」と「前進」とは密接に関連しているのではないのでしょうか。

毎年、教会の「教勢」について報じられますが、昨年は、どう受け止めておられるでしょうか。

福音の宣教と教会の形成は、主から教会に、すなわち、信者の共同体に託されている中心的な使命でしょう。

働き人と信者の健全な成長があつてこそ、それにふさわしい教会の形成も働きもあるのだと思われまます。



石が叫ぶ

福沢満雄

「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ』」 (マタイ三章3節)

迎春。

昨年台風や地震による自然界の力の前に打ちのめされた思いがした1年でした。荒野に道を、ではなく、道が荒野になり、街が濁流に流されるのを見ました。温暖化が進み、自然界が破壊され、まさに終末が近いのを感じます。

日本のクリスチャンは数少ないですが、それだけに、皆で力を合わせて、福音宣教に立ち上がる時が来しています。

まさに、総動員で、イエスさまの福音を伝えましょう。

日本の霊界は荒野です。荒野で叫ぶ者の声、が求められています。

私たちが叫ばなければ、石が叫ぶでしょう。



ヴィジョンにも
える年として
塩島光三

新たな年を迎え神の御摂理のうちに啓示に導かれ霊的祝福に溢れた年となられます事をお祈り致します。

昨秋、九死に一生を得た私に神は大いなるヴィジョンを示されました。20年程前起こされ3回程続き、ピリー・グラハム東京大会と合流しその後立消えてしまっていた首都圏キリスト教大会を再興せよというご指示を賜ったのであります。

この大会は99%の救いの外にある人々に向かって積極的な伝道を繰り広げた大会でありましたが、ピリー・グラハム東京大会を最後に、この様な外に向かつての伝道が下火になり、信徒に比重が置かれた諸聖会や諸集会に比重が移って今日に至っていることを悟りました。

そこで総伝の目的である「すべての人に福音を伝えよう」と言う使命を果たし、そのためには「すべてのクリスチャンがよいあかし人になる」と言う目的を果たし、更にこの大会を通して「すべての教会が成長しよう」と言う目的を果たす大会となるように超教派の伝道を実現致したく励む年であることを祈っております。



主イエス・キリストは
安藤能成

「み救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です」
(ルカ二・31-32)

主イエスのご降誕から私たちの暦は始まります。それは大きな希望ではないでしょうか。新しい年がどのような展開するとしても、はじめから主が存在していただくさるのだから。

私たちを罪から解放し、永遠の滅びから救い出してくださいました方は、私たちのすべての問題にも救いとなってくださいさらないでしょうか。

私たちの様々な課題について祈り求めるとき、主はその課題にたいする道を示してくださいさらないでしょうか。

私たちの生き方と働きは、信仰の領域、社会の領域の違いにかかわらず主のご栄光を現わすものとなるべきでしょう。

主はすべての人のためです。まだ、このはかり知れない恵みを知らない人々のために伝える使命が私たちに与えられています。



歴史に学び、歴史を創る
中島秀一

昨年10月、淀橋教会は創立100周年を迎えた。福音派の先陣教会としての歴史は激動する時代を駆け抜けて来たという意味で重みがある。

「歴史に学ばない者は、歴史を創造することは出来ない」(泉田昭師)と言われるが、まさに至言である。

1995年はわが国におけるIT革命元年と言われる。それは産業革命に匹敵するような技術革命であると言っても過言ではない。わが国は

高度成長時代を経て今や急激なIT革命の波に覆われている。その結果これまでに経験したことがないような悲惨な事件が増している。これは物と心の歪みから生じる現象である。急ぐべきは心へのケアである。

歴史家は、英国の労働者がキリストに獲得されていなかったとしたら英国にもフランス革命同様の流血革命が起ったであろうと主張する。それを止めたのは、ウエスレーによるメソジスト信仰運動であった。

新年を迎えてキリスト教の新しい歴史が創られることを切望する。今年こそ共に歴史に学び、協力し、伝道し、教会を建て上げることに熱心な者とさせて頂くのではないか。



主を待ち望む者は新しく力
住吉英治

明けましておめでとうございませう。本年もよろしくお願い致します。

2005年、今年は3つの飛躍を願っています。

第一は、教会の飛躍です。大井教会は今年72年の歴史を迎え、多くの伝道者を輩出してきました。長い歩みで培われた良い伝統を生かし、更に神さまに用いられる教会へと飛翔したく願います。

第二は、私自身の飛躍です。早いもので今年の4月で伝道者として21年目を迎えます。20年間守ってきたことを神に感謝しつつ、思いを新たに、更に前進していきたいと願います。

第三は、総動員伝道の飛躍です。地域の教会が1つになって何かをやるのが難しいと言われるこの時代、総伝が何とかリンク役を果たし、日本のリバイバルのために、微力ながら励ませていただきたいと願います。

「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができ、走ってもたゆまず、歩いても疲れない。」(イザヤ四十一・31)

その他の委員



村上宣道



鈴木留蔵



北條和人



浅見鶴蔵



岡田信良



多胡元喜



カックス

総動員伝道は総勢16名の委員によつて構成されています。さらに3名の協力伝道者(渡辺暢雄師、岸義紘師、宮本俊一師)が奉仕を共にしてくださっています。
2005年も皆様のお祈りとご支援によつて、神の国と神の民のために、さらに神を知らない人々のために、労させていだきたいと意欲を新しくしています。主は近いのです。今と言う時を失いたくありません。

2005年総動員伝道新企画
『伝道研修会』のお知らせ

■講師

大嶋義隆師(日本同盟基督教団・八千代聖書教会協力牧師、学校法人・東京キリスト教学園・法人顧問)

■日時

2005年1月28日(金)
午後6時30分〜8時30分

■会場

総動員伝道事務所(OCビル614号)

《内容》

①「三浦綾子記念文庫を日本のすべての教会に設置して福音を伝えよう」②「教会成長の秘訣」聖書の多読と精読、篤い熱心な祈り、暖かい心からの交わり、種々の具体的な伝道方策、牧師の力量と見識

大嶋先生の長い牧会生活と、種々の統計を通しての伝道方策について話していただきます。お楽しみに!

※参加費一、〇〇〇円(資料代等)

※お尋ね、お申込 総伝事務所まで



早天祈祷会の恵み

毎朝、早天祈祷会を始めて3年目になります。この間、計り知れない恵みと祝福を受けてきました。聖書も旧・新含めて約3分の2ほど読み進めてくることができました。最初は私と妻だけでしたが、そのうちに数人の方が出席されるようになりました。ある時は、信者3人に対して5人の求道者の出席という摩訶不思議な一時期もありました。神さまのなさることはすばらしいですね。

時間は5時30分から6時30分。賛美、祈り、聖書朗読、注解書を用いたの解説、教えられたことや感想の分かち合い、祈り。毎朝この単純なことの繰り返しです。でもこの単純さがいいのです。特に分かち合いの時は有益であり、互いに教えられ、恵まれます。

私の親しい牧師は、早天祈祷で毎日説教をしていたそうです。すごいなあと思いました。韓国のある教会では早天祈祷会に力を入れ、毎朝2万人近くの方が祈りに来られます。その教会は早天祈祷会で成長してきました。

継続は力なり。続けていくことが大切なんですね。私もこれから色々工夫し、毎朝のメッセージにもチャレンジしてみたいと思います。

住吉英治

2005年1月1日発行
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-3-614
総動員伝道
03-3291-5035
03-3291-5266
Eメール tmh@ma.kcom.ne.jp
ホームページ
http://www.gospeljapan.com/sodoin/
振替 00140-1-107255
代表 姫井 雅夫
編集 住吉 英治 (送料別)
定価 一部 10円 (送料別)
印刷 新生宣教団 (2,800枚)

11月会計

収入	432,339
活動費	101,689
印刷発送	136,674
部屋代	195,219
人件費	0
積立	10,000
支出計	443,582

●ご支援、ありがとうございます。
日本宣教の鍵は、「信徒」にあります。そのために総動員伝道では、「聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げ」(エペソ四・12)ることを主張してきました。「すべてのクリスチャンをよい証人に」が目的のひとつです。整えるための教材を準備しています。まだ活用していない教会はぜひお試しください。活用の仕方の講習にも伺います。
新年はこれに取り組んでみよう、と思っていたけると感謝です。声をかけてください。